

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：保健管理センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標 学生が、在学中のみならず、社会に旅立った後も生涯にわたって心身の健康を維持できるために、「正しい健康観」を身につけることを第一の目標として、以下の3つの方法によって教育を行う。 1. 講義による健康教育 一般教養講義として、フィジカル面では「健康スポーツ科学」、メンタル面では「キャンパスライフとメンタルヘルス」の二つの講義を中心に内容の充実を図り、学生が知っておくべき心とからだの健康・病気に関する知識を習得させる。また、保健管理センター講演会や出前講義などにより、喫緊の問題についての教育活動を行う。 2. 日常診療・健康診断における教育 一般外来、健康診断及び事後措置に訪れる学生に対し、実際の症状、検査結果、問診内容をふまえて、健康・病気に関する保健指導・教育を、医師・保健師により行う。平成23年度は禁煙教育を重点に行うこと、また、掲示板・パンフレットを見直して充実を図ることを目標とする。 3. ホームページ、メールによる啓発教育 現在ある学生保健ネットワークを、学生担当教員への情報提供のみでなく、双方向性で活用できるものにする、リニューアルしたホームページに、健康情報をさらに盛り込んで、健康教育の一環とすることを目標とする。</p> <p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 講義による健康教育 予定した講義を順調にこなすことができた。特にメンタル系では、正規の講義以外に自殺予防やストレスマネジメントなどに関して、精神科教員、臨床心理士により、学生に対して15の講義、教員に対して21の研修会を行っている。また、キャンパスライフとメンタルヘルス教科書を作成しているが、本年度はそのダイジェスト版の改訂を行った。 2. 日常診療・健康診断における教育 新入生2400名に対して、保健師、医師がそれぞれface to faceで、問診票などを参考に、健康指導を行った。在校生についても外来や健康診断に於いて、パンフレットなどを用いて健康指導を行った。また、新しい受動喫煙防止の指針に対応すべく、保健管理センターが中心となってWG等による活動を行った。 3. ホームページ、メールによる啓発教育 学生保健ネットワークで配信した内容については、その都度新着情報としてホームページにアップすることにより、保健管理センターからの健康情報について、職員、学生に周知することができるように工夫した。学生保健ネットワークは、合計13回配信を行った。</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標 組織としての研究は、健康や疾病に関する集約的(疫学的)研究と個々の事例検討による報告が主体である。全国の保健管理センターのスタッフが集まる保健管理研究会やメンタルヘルス系学会・研究会が発表の場となる。今年度は、以下の2つを目標とする。 1. 第41回中国・四国大学保健管理研究会の開催 本年度は岡山大学が主幹で行なう。研究会を滞りなく、成功裏に終えること、また、充実した研究会にすることを重要な目標とする。 2. 新たな研究内容の取り組みと報告 本年度は、受動喫煙対策としての職員の尿中コチニン測定の実績の発表、メンタル系の心理テストの論文化などを目標とする。また、新しい研究の取り組みとして、学生のアレルギーに焦点を当てて研究を行う。</p> <p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 第41回中国・四国大学保健管理研究会の開催 H23年8月24日から26日まで創立五十周年記念館で行われ、森田学長の特別講演を始め、3つの教育講演および24の一般演題、看護分科会などを滞りなく行うことができ、参加者に高い評価を得た。充実した研究会を遂行するという目標は達成されたと考える。 2. 新たな研究内容の取り組みと報告 受動喫煙防止に関する尿中コチニン測定の研究結果を全国大学保健管理研究会にて発表して、推薦論文に選出された。また新入生のアレルギーに関する研究を健康診断の間診票および血液検査によって行い、学生に結果を還元できた。さらに、結果を、H24年度の全国大学保健管理研究会に発表予定。</p>
<p>③センター業務領域</p> <p>③-1 目標 上記「教育」に記載した事項に加え、以下の3点を平成23年度の目標とする。 1. 健康診断結果通知の迅速化、正確性のさらなる向上 これまで胸部レントゲンのデジタル化、ICカード導入などを行ってきた。本年度は、診察医が現場で所見・判定のPCへの直接入力を行い、さらなるデータ処理の迅速化を図り、早期に正確な健診結果の通知が可能になると考える。 2. 職員健康診断受診率向上 津島地区職員の受診率はなお低迷している。平成22年度は、3年以上健康診断未受診者に学内便と2回のメールを送付し、ある程度の反応があったが、今後未受診者への定常的な対応方法を策定し、健診受診率をさらに向上させることを目標とする。 3. 健康診断事後措置の充実 学生・職員とも健診所見者への事後措置への反応は「鈍い」と言わざるを得ない。その対策としてこれまでいろいろな方法を試行錯誤してきた。本年度は過去の対策を再評価した上で、今後行うべき最も有効な方法を検討し、実施することを目標とする。</p> <p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 健康診断結果通知の迅速化、正確性のさらなる向上 今年度より腹囲、聴力測定をICカードによるPC現場入力化し、精度および処理迅速化の向上に結びつけた。また、診察医がPCで既往症、現病歴、診察所見などを現場入力するシステムを導入したことにより、情報量が増えるとともに、転記ミスがなくなり、精度向上および省力化にも結びつく結果となった。 2. 職員健康診断受診率向上 昨年度の反省のもとに受診率の向上を図り、掲示、メール、安全衛生委員会等を通じて啓発活動を行った。学生においては新入生はほぼ100%の受診率であったが、在校生、特に2年生の受診率が悪かった。職員については、津島地区での受診率(特に教員)が低い傾向であった。学生、職員ともに、全体の受診率はほぼ例年通りという結果であった。 3. 健康診断事後措置の充実 学生、職員共に緊急の呼び出しを要する受診者に対しては、電話などで呼び出しをかけて、事後措置を行い、特別な問題を来した例はなかった。その他の事後措置の状況は例年とほぼ同様であった。</p>
<p>④社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>④-1 目標 組織としての「社会貢献」への取り組みは、人手不足や方法論の問題でなかなか困難であり、個々の職員(主に教員)が自ら判断し、可能な限り活動しているというのが現状である。現在、実施している社会貢献としては、保健所関係からの依頼講演、医師会依頼の医学的講演、学会依頼の市民公開講座・講演、学校関係からの依頼講演・講習会などであり、各教員が、本務に支障のない範囲で対応している。法人化後、労働安全衛生関連の職務増大に伴い、学内業務が中心となり、対外的な社会貢献活動は今後ますます困難になっているが、当組織の性格上やむを得ないことであると考えている。センターとして社会貢献事項を検討する。</p> <p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>自己評価</p> <p>学外へむけての社会貢献は、個々の職員が、その専門分野に応じて個々の活動を行っており、平成23年度の学外で講演・講習を行ったものとして、小倉:エイズ出前講座、市民講座など4件、大西:教育研修会、メンタルヘルス講演会など17件、清水:教職員研修会など5件、岩崎:肝疾患セミナーなど3件があげられる。当センターに所属する各教員が行う数としては、順当な数と考えている。 組織としての社会貢献は、当センターとしては困難な点が多いが、今後岡山大学の敷地内全面禁煙に向けて、地域住民との理解と協力をもとめるために、安全衛生部とともに活動を行っていきたい。また、地域住民へむけた、市民公開講座なども考えられるが、当センターの立場からは、学内の問題を中心に活動を行い、社会貢献に関しては各個人の裁量にゆだねるという形が今のところ妥当と考えている。</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>教育活動については、特にメンタルヘルスに関連した講義、研修活動は充分達成できたと思う。今後はほとんどの新入生が入学後早期に受講可能なシステムを考えていきたい。研究については、当初の目標は達成できたと考えているが、さらに新たな研究テーマを設定して発表・論文化の作業を進めていくべきと考えている。センター業務については、胸部X線のデジタル化、ICカード化、PC入力導入などによって健康診断それ自体の精度、迅速性、省力化などは著しく改善している。しかし、在校生の受診率、津島地区職員の受診率の改善等、種々の啓発活動を行っているがなかなか実を結ばないのが現状である。今後さらなる工夫が必要と考える。社会貢献については、個々の教員の事情に応じた活動に託しているのが現状である。当センターが組織として企画し、活動できる社会貢献活動については今後センター内で検討し、模索していきたい。</p>	